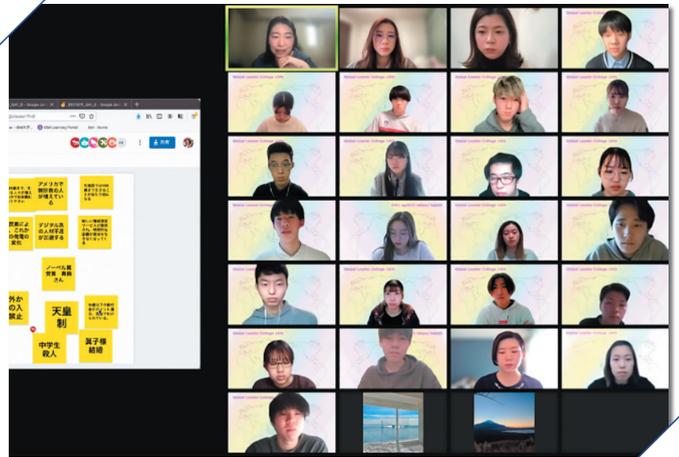


# 創価大学

[ SOKA UNIVERSITY ]

## 先輩たちが励まし、 支える環境の下で 圧倒的行動力を育む 実践型プロジェクト



コロナ禍のため、オンラインで開講されたGLCの講座の様様。

創価大学は、学生が自ら考え、行動する力を養うための機会が充実していることが大きな特色の一つ。なかでも象徴的なのが、キャリアセンターが実施するグローバル・リーダー・カレッジ「GLC」と学内ビジネスコンテスト「SHINE」だ。各プログラムのねらいや成果について、教職員と卒業生・在学生に話を聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎

### 学生の行動力の原点にある 「創造的世界市民」教育

2021年4月に創立50周年を迎えた創価大学は、東京都八王子市のキャンパスに、文理にまたがる8学部を擁する総合大学だ(図1)。

近年では、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価で最高評価である「S」を2回

図1 創価大学の学部・学科構成

経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
文学部	人間学科
教育学部	教育学科
	児童教育学科
国際教養学部	国際教養学科
理工学部	情報システム工学科
	共生創造理工学科
看護学部	看護学科

連続で獲得。現在はコロナ禍で一時的に留学生数は減少しているものの、毎年多くの学生が世界各国に飛び立っている。また、長期留学先で、自ら開拓して現地企業でのインターンシップなどに取り組む学生も多い。

留学だけでなく、SDGsに貢献する活動や地域活動、さらには学外のビジネスコンテストなどにチャレンジする学生も多く、自ら考え、それを行動に結びつける力は創価大生の大きな強みといえる。その行動力は就職時に企業からも高く評価され、社会に出てからの活躍にもつながっている。

このバイタリティはどこから生まれるのだろうか。根幹にあるのは、知力と人間力を兼ね備えた「創造的世界市民」の育成を目指すという同大学の教育方針だ。さらに、そのマインドが、教員だけではなく学生にも共有されていることが大きい。自ら行動することで成長を実現してきた先輩や卒業生が、後輩を後押しする環境が整っており、後輩は先輩の姿や言葉から多くを



学士課程教育機構  
講師 ふみこ  
羽賀文湖さん

学び、行動力を養っていく。

### 考える力や伝える力を磨き 行動へつなげるGLC

その象徴ともいえるのが、キャリアセンター主催の課外講座であるグローバル・リーダー・カレッジ (GLC)。学部横断型でグローバルリーダーに関心のある学生を募り、考える力や伝える力、学ぶ力を磨き、現実社会で活躍するリーダーを育成するプログラムだ。2006年にGLCを立ち上げた羽賀文湖講師はこう語る。

「およそ1学年36人を定員とした少数精鋭のプログラムです。社会で活躍している創価大学の卒業生が講師を務め、さらに一人ひとりに卒業生のメンタ

図2 グローバル・リーダー・カレッジ (GLC) の5つのコミットメント



図3 GLCのカリキュラムを構成する4つの軸



一がつきます。講座は土曜日の開講で、1年次の夏休み明けからスタートし、3年次の春まで続きます。その後、GLCで学んだことを3年次の夏休み以降の留学につなげていく学生が多いですね」

単に知識を学ぶプログラムではなく、図2に示した5つのコミットメントを教育目標に掲げている。

「一般論として、学部段階のグローバル教育はどうしても英語力の強化に偏重しがちです。しかし、英語はあくまでも手段に過ぎません。大事なのは英語を使って何をするかです。社会や世界にどう貢献するのかを考え、行動するための力を養うのがGLCの目的の一つです。ただし講座を受講するだけで人の行動が変容することはありません。講座はあくまでインプットや触発の場であり、講座で学んだことを日々の授業や生活、さまざまな活動に活かしていくことが何より大切だと考えています」(羽賀文湖さん)

プログラムは図3に示した4つの軸で展開される。一連のプログラムを通して、GLCの学生は、自分と異なる考え方や価値観をもつ人たちと協働してものごとを進める力を磨くことができる。また、現実の社会課題解決のために不可欠である「当事者意識」が養われ、それによって留学や卒業後の進路の目標が明確になる学生も多いという。

「学部の単位とは関係のない課外

講座だからこそ、本当に学びたい意欲がある学生が集まるという点も大きいですね。積極的な同級生に触発されて、『自分も負けていけない』という気持ちが生まれますから。決してGLCの学生全員が最初から大胆な行動ができる学生ばかりということではなく、刺激を受けながら、行動に必要な知識やスキルを学ぶなかで、行動できる範囲が段階的に広がっていく、そんな成長曲線を描く学生が多いですね」(羽賀文湖さん)

### 6日間でビジネスプランの立案に取り組む「SHINE」

もう一つ、行動力を養う取組として注目されるのが、これもキャリアセンターが主催する学内ビジネスコンテスト「SHINE」だ。

対象は1、2年生で、開催時期は春休み。35～40人が参加し、6日間にわたり、朝から晩までのスケジュールで、テーマに沿ったビジネスプランをグループワークで練り上げていく。テーマが示されるのは初日で、期間中には分

析力やプロジェクトマネジメントなどに関する講座も受講しつつ、最終日には卒業生である社会人を審査員に迎え、最終報告会を行う。

「実現性、論理性、独創性のあるビジネスプランが求められますから、社会経験があるわけではない1、2年生にとっては大きな挑戦です。グループワークでは真剣に取り組む分、衝突もあります。しかし、スタッフが企画内容やメンタル面に関して丁寧にサポートを行い、期間中には何度も振り返りを行うので、みんな自身の課題と向き合い、乗り越えながら成長していきます。自分たちの力で価値を生み出す経験を通して、6日間で大きく意識が変わり、留学やゼミでの取組など次の挑戦に向けた自信を身につける学生が多いです」(キャリアセンター／坂内華菜さん)

行動した経験が次の行動につながる。このサイクルを生み出す教育環境こそが社会に通用する力を育てる。



キャリアセンター  
キャリア・就職支援課  
副主任  
坂内華菜さん



SHINEの最終報告会の様子。

## 先輩たちの言葉が行動する勇気を与えてくれた

### GLCの仲間から刺激を受け インドへの留学を決断

入学当初から、「社会で活躍できる力をつけたい」という思いがあり、それがGLCを受講した動機です。

GLCでの学びは非常に楽しかったです。社会の第一線で活躍する卒業生に指導いただけるため、マインド面、スキル面それぞれで自分が求めている以上のことを身につけ、成長することができました。特にコミュニケーション関連の講座を通して、結論から話す、テーマを明確にして話すといったことができるようになりましたし、グループで効果的に議論を進める力なども身につきました。また、「Think」という講座では、物事の本質を考える力が養われました。それまでは直感で判断するタイプで、考えることが苦手でしたが、その弱

みを克服できたと感じています。

これらの力を学部で授業で活かすことができたのも良かったです。「何のために学ぶのか」を常に意識するようになり、グループワークでのアウトプットの質も高められたと思います。そのため、学部での学びも楽しくなるといって相乗効果がありました。

一緒に学ぶGLC生からも多くの刺激を受けました。入学当初は、留学はまったく意識していなかったのですが、GLCの仲間が具体的な留学計画を立てていたり、語学学習に取り組んだりするのに触発されて、留学への意欲も一気に高まっていきました。

3年の後半からインドのデリー大学に留学しました。国内とは違った環境で成果を出すことができるか、自分にとっては大きなチャレンジでしたが、この経験を通して、「やると決めてやったら



外資系IT企業勤務  
2013年経営学部  
卒業  
宮地英俊さん

できる」という自信を身につけることができました。もともと新しいことへの挑戦には尻込みする面が自分にはあったのですが、先輩たちの「失敗しても大丈夫」「ここで挑戦をしなくてもいいの?」といった言葉に励まされ、それが行動につながっていったんです。

GLCで学んだこと、その結果として身についた行動力は、社会人となった今も自分の軸となる力になっています。

この経験を創価大学の後輩たちにも伝えていきたいと思っています。

## 問題を論理的に考え、行動につなげる力が身についた

### 悔しさを乗り越える経験が 自分を成長させてくれた

GLC受講のきっかけは、1年生の夏休みにフィリピンの教育ボランティアに参加して、現地の子どものための貧困の現状を目の当たりにしたことです。自分が何もできないことが悔しくて、社会課題解決に貢献できる力をつけたいという思いを抱くようになったのです。

実際に講座が始まると周囲のレベルが高くてついていくのが本当に大変でした。ディスカッションで思うように発言

ができず、帰り道に悔し涙を流したこともあります。それでも、メンターの先輩たちや同級生が励ましてくれて、その恩に報いようと必死でがんばることができました。講座のノートを何度も読み返し、学んだことは次の講座で必ず活かそうと自分なりに作戦を立て、その積み重ねで徐々に成長できたと思います。

印象に残っている講座の一つがグローバルアナリシスです。具体的にはパレスチナ問題に取り組んだのですが、社会問題をその背景から紐解いて問題の本質を捉える力が養われていきました。

GLCで学ぶなかで行動することへの意欲も高まりました。2年の春にはタイとマレーシアを単身で訪れ、研究テーマとして興味をもっていたハラル化粧品について、現地のドラッグストアや女性にインタビューしてきました。もともと

と引っ込み思案な性格なのですが、知的な好奇心がそれに勝ったという感じですね。

3年の夏からはエジプトに留学。ジェンダー学やその背景となるアラブの政治・文化、アラビア語について学ぶと同時に、ハラル化粧品を使った日本流のかわいいメイクを現地の女性に伝える企画も自分自身でプランニングしました。これからというときにコロナ禍で緊急帰国になってしまいましたが、実施直前まで漕ぎ着けることができたのは、大きな自信になりました。

GLCでは仲間の大切さ、悔しさを乗り越えてやり遂げることの大切さを学ぶことができました。また、問題の本質を論理的に考え、それを行動につなげられるようになったことも大きな成果だと感じています。



文学部4年生  
馬場良美さん